

高知市の健康づくりの取組について(1)

< 喫煙・受動喫煙対策 >



高知市で把握している現状

高知市の喫煙率

全体18.8% 男性28.2% 女性12.4%(H29年高知市健康づくりアンケート)

【全国16.7% 男性27.1% 女性7.6%(令和元年国民健康・栄養調査)】

→男女ともに全国平均を上回っており、特に女性の喫煙率が高い

高知市で実施した幼児健診の問診票で把握した父親・母親の喫煙状況と子どもの前での喫煙状況(R元, R3年度母子保健課喫煙対策実績)

■父親・母親の喫煙者の割合は、父親は30%以上、母親は7~8%

■父親・母親の子どもの前での喫煙は、約10~20%

(それぞれ、R元年度と比べR3年度は減少)

課題

ライフ
ステージ

乳幼児
期

学童期
(小学校)

中学
高校

大学
就職

妊娠
出産

働き盛
り

高齢

習慣化・ニコチン依存

受動喫煙
による
影響

(レベル1)
乳幼児突然死
症候群

(レベル2)
喘息の発症・重症化, 呼吸機能
低下, 中耳の病気, う蝕(虫歯)

(レベル2)
低出生体重児
胎児発育遅延

(レベル1)
肺がん, 脳卒中
虚血性心疾患

レベル1: 因果関係を推定する証拠が十分(確実)
レベル2: 証拠は因果関係を示唆(可能性あり)

参考文献: e-ヘルスネット(厚生労働省)

将来子どもがたばこを吸い始めないためには、子どもへの啓発だけでなく周囲の大人が望ましい行動(禁煙, 受動喫煙防止, 知識の伝達など)をとれるよう各ステージのタイミングでたばこの害を啓発することが必要。

高知市保健所の取組

①乳幼児期の支援体制

母子保健課との連携（年1回担当者会実施）

- ・母子手帳交付時面接時や赤ちゃん誕生おめでとう訪問，幼児健診にて受動喫煙やたばこの害に関する情報をチラシで周知。
- ・子育て支援訪問員や保健師が保健指導する際に，短時間で効果的にたばこの害に関する正しい知識を情報提供できるよう伝える（周知や伝え方を工夫など）

保育園・幼稚園等との連携

- ・世界禁煙デーに合わせ保育園での防煙教室実施（年1回）
- ・就学前（年長児）の保護者へ禁煙・受動喫煙についてのチラシを郵送（2500世帯）
- ・ほけんだよりへの喫煙に関する情報掲載（年1回）

②学童期の支援体制

子ども育成課，放課後児童クラブとの連携

- ・放課後児童クラブの夏休み期間に**防煙教室実施**。
R元年以降，新型コロナウイルスの影響で実施できていなかったが，R4年度から再開。**19か所申込みがあり，うち10か所で実施**（9か所はコロナにより中止）。家庭へもいきいき健康チャレンジと受動喫煙のチラシを持ち帰ってもらった。

【子どもたちの感想】

- ・たばこの煙をにおったことがあるけど，あまりにおっちゃいけないなんて知りませんでした。
- ・たばこを吸ったらだめなのは知っていたけど，病気になるのは知らなかった。
- ・お父さんにもやめてもらって，危険じゃない家にしないとな。ちゃんとたばこを吸ったらいけない理由も教えてやめさせないと。

③その他の啓発

- ・広報誌「あかるいまち」への掲載／全庁掲示板／高知市公式LINE／広報誌「労働ニュース」
- ・いきいき健康チャレンジで禁煙に取り組む方への情報提供。
- ・いきいき健康チャレンジのイベントや関連した商業施設等でのイベント，健康相談などの際にたばこの害に関する啓発を実施。
- ・たばこの害についての啓発が効果的に実施できるよう，手に取りやすいポケットティッシュを用いた啓発媒体(相談窓口の周知)を新たに作成。



- ◆幅広い世代に正しい情報を届けるための具体策・工夫は？
- ◆禁煙に取り組むきっかけや成功率をあげるための仲間づくりの方法は？

参考

- ◆喫煙している人の喫煙開始年齢は意外に早く、小学校卒業までに20%の子どもが試喫煙を経験しているとの報告もある。喫煙開始理由としては、好奇心や周囲の人(特に親)の影響などを受け、たばこの害を知らないまま喫煙し始めることが多いという報告もある。(「タバコによる小児に対する影響－歯科医師・歯科衛生士は禁煙支援の適任者」, 小児歯科学雑誌47(3)419－426 2009)
- ◆常時受動喫煙を受けている子どもは、将来喫煙者になりやすい。(WHOの見解)
- ◆子どもは一旦喫煙を始めると短期間でニコチン依存状態に陥るのが特徴で、例えば中高生の場合、多くは喫煙を始めると1～数週間でやめられなくなってしまう。(「子どもとタバコの害」, おがた小児科内科医院 緒方健一)